

加古川市ユニバーサルタウン基本構想
(概要版)

平成16年3月

加古川市

加古川市ユニバーサルタウン基本構想について

1. 目的

本市において、すべての人が、その能力を活かして暮らしの中に生きがいを見出し、快適に生き生きと生活できるまちの創造をめざした施策展開の基本方向をまとめる。

特に、生産年齢人口の減少に伴う社会の活力の低下や産業の沈滞化など様々な問題が想定され、高齢者の社会参画が一層求められることから、望ましい地域社会のあり方と、モデル的な整備を目指した構想をまとめることを目的とした。

2. 策定方法及び構成

本構想が将来予測的側面が大きいことから、先進的な取組み事例の研究、高齢者の意識調査などのアンケート調査(1300部配布、有効回答数618サンプル、回答率47.5%)、ヒアリング調査(5団体)を基本として調査を行い、施策の方向づけを行った。(委託先：(財)21世紀ヒューマンケア研究機構)

また、高齢期人口を取り巻く状況、高齢者の意識、高齢者の活動環境と活動の現状、先進事例に見る高齢者の活動状況、そして、施策の方向の7章で構成する。

3. 概要

構想の中で、「ユニバーサルタウンとは、すべての人が、勤労から生きがいのある高齢期へ、そして安心の高齢期へと段差なくスムーズに過ごすことのできるまちづくりの理念」と定義している。

主な内容は、現役時代の資格や技術を活かした起業などを含めた就業や活動の機会づくりや農村環境をはじめ本市の特性を生かした農業生活機会の整備、高齢期に生かすことのできる資格、技術、知識教育の支援など、健康な高齢者層「戦力となるステージ」と加齢により心身機能が低下する高齢者層「支えが必要なステージ」の2つの視点から施策の方向づけを行い、その実現に向けたひとつのモデル方策として、加古川市北部地域におけるモデル地域の整備の促進について掲げた。

4. 今後の取組み方向

本構想は、新総合基本計画や高齢者保健福祉計画などの行政計画、各部局での政策立案の検討課程への反映や、生涯学習活動や地域交流活動の視点、また、本構想をリードするモデル地域の整備促進へと繋げていく。

【加古川市ユニバーサルタウン基本構想】

第1章 加古川市における「ユニバーサルタウン」研究の背景

本市の持つ高齢者の活力とまちづくり活動の素養、比較的平坦な地理や高い定着性等の特性を生かし「全ての人々が、勤労から、生きがいのある高齢期へ、そして安心の高齢期へと、段差なくスムーズに過ごすこと、またはそれを追求することができるまち」(ユニバーサルタウン)の実現に向けて研究を行った。

第2章 加古川市の特性と高齢期人口を取り巻く状況

本構想では、50歳以上を「高齢期人口」とし、以下の区分に定義した。

(近未来、高齢者となる年齢層を対象に入れるため。)

- | | |
|----------------|----------|
| ・ 50～64歳 | 「準高齢世代」 |
| ・ 65～74歳 ... | 「前期高齢世代」 |
| ・ 75歳以上 ... | 「後期高齢世代」 |
- ...「高齢世代」

加古川市全体の現状を人口、経済、産業の状況から分析した。

加古川市では、1990年代に入り、転出数が上向き、社会減も見えつつある。また、1990年代後半以降、生産年齢人口の伸びは鈍化し、高齢者人口の伸びは加速している。概して言えば、社会全体を高齢者自身が支えていかななくてはならず、社会を支える「戦力となる高齢者」、そして、身心機能の低下を伴った「支えが必要な高齢者」の2つのステージに分けて考える必要があり、「戦力となる高齢者」のための活動環境の整備および「支えが必要な高齢者」のための支えられやすいそして支えやすい環境の整備が重要な課題である。

産業においては、産業の構図の変化(生活に密着しているサービス業の伸長)から、基本構想においても生活に直接関連している領域で施策の方向を考える必要性が示唆される。

経済面においては、市民の持ち家数や所得など、兵庫県平均と比較してゆとりがあることとみることができる高齢者のいる世帯が多い一方で、就業の機会の少なさも示唆される。

また、地域別特性が示され、この特性に沿って加古川市の地域のグループ分け(右欄は主なイメージ)を行った。

都市型	加古川、平岡、野口、尾上、別府	若い世代の比率が高い 人口密度が中程度～大きめ	商業が中心産業となっているもしくは基幹3産業のバランスがとれている
ニュータウン型	東神吉、西神吉、米田、神野	高齢期人口の比率が高い 人口密度が中程度	サービス業が中心となっているもしくは基幹3産業のバランスがとれている
農村型	平荘、上荘、八幡、志方	高齢期人口の比率が高い 人口密度が小さい	農業を兼業している

第3章 加古川市の高齢期人口の意識(平成13年度市民意識調査から)

平成13年度市民意識調査結果から、「住みやすさと定住意向」、「生活評価にみる満足度が低い項目」、「生活項目にみる重要課題」そして「市の将来像-暮らしてみたいまち」項目に焦点を当て、50代、60代、そして70代以上の高齢期人口の意識を男女別にまとめた。

「住みやすさ」評価では、50代男性と60代女性が最も「住みにくい」と感じており、また、50代男女では「定住意向」を示しているのは5割のみに留まり、「戦力となるステージ」の市への評価や定住意向の向上に対する取組みの必要性が示唆される。

これらのほか、60代を境に、50代と60代以上の世代での意識の格差がみられることや、高齢になるにつれて、生活関連の項目が施策の重要項目として挙げられていることから、「戦力となるステージ」に対する今後の施策や生活関連施策の展開の工夫が重要であることが示唆される。

第4章 加古川市高齢期人口の意識（高齢期人口の活動状況と高齢期に対する意識に関するアンケート調査から）

市民意識調査ではみられなかった具体的な高齢期人口の活動状況や意向を把握するため、50代以上の人を対象にアンケート調査を実施し、活動状況と意向、高齢期に対する意識、居住環境や市への要望に分けてまとめた。

アンケート結果から、準高齢世代は、約半数が仕事以外の活動を行っておらず、退職後の生活にトランスファーショックを感じる可能性があり、そのため、退職前から退職後生活への取り掛かりをスムーズにする施策の方向づけが必要であることが1つのポイントであると考えられる。

一方で、高齢期人口に対して、趣味という個人の余暇活動ばかりでなく、社会の戦力となって活動していくことに対しても興味を感じ行動へとつながるような意識向上の取組みも必要であると考えられる。また、高齢期の活動に活かしたい資格、技術、経験および知識を持っているとしたのは10～15%のみであったことから、高齢期における活動を活性化させるためには、準高齢世代から高齢期を意識した経験、そして、知識や資格習得のための学習活動が必要であると示唆される。

第5章 加古川市における高齢期人口の活動状況の現状

都市部の準高齢世代が属している事業所、事業所の取組みに詳しい商工会議所、農村地域の高齢期人口が属する農協、退職した高齢者で構成される老人クラブに対し、これらの組織が取組んでいる高齢期人口に関わる活動および高齢期人口のための支援活動の状況について聞き取り調査を行った。

調査結果から基本構想に対して重要と思われるポイント（視点）は以下のとおりである。

都市部の高齢期人口に対しては、「仕事」と「仕事をする場や機会」の提供が必要である。

農村部の高齢期人口に対しては、「仕事継続のためのしくみづくりや支援」が必要である。

高齢期人口に対して仕事を活動として提案する場合は、以下の点に注意する必要がある。

* 仕事および従事者の安定供給（仕事の供給も従事者である高齢者も安定して供給する）

* 期待する収入と生きがいに対する意識のバランス（生きがいと収入に対する期待を高齢期人口および雇用側もバランスよくもつ）

* 高齢期人口に供給する仕事内容の充実化（高齢期人口が魅力あると感じる仕事内容に拡充する）

* 仕事に従事する高齢者の意識の改革（高齢期に行う仕事は退職前の技術や知識、経験を活かすものであって、「肩書」までは引きずらない）

また、高齢期人口に対して活動を提案する場合には、その他の注意事項として以下の点が挙げられた。

* 地域との連携の中で活動を行える活動環境の整備

* 活動拠点の充実

* 高齢者間のコミュニケーションの円滑化

* 今後の高齢者の意識の変化を捉えること

* 高齢者の活動に対する評価への認識

第6章 先進地事例にみる高齢期人口の活動状況

基本構想への施策の方向づけを強化するため、高齢期人口の活動に関する先進事例として4例選択し、調査を行った。

<都市型事例>

千葉県我孫子市「ボランティア・市民活動サポートセンター」

東京都三鷹市「シニアSOHO普及サロン・三鷹」

<ニュータウン型事例>

埼玉県多摩市「NPO法人多摩ニュータウン再生機構」

<要介護高齢者のための取組み事例>

広島県庄原市「老人保健施設愛生苑 地域サテライトダイルーム」

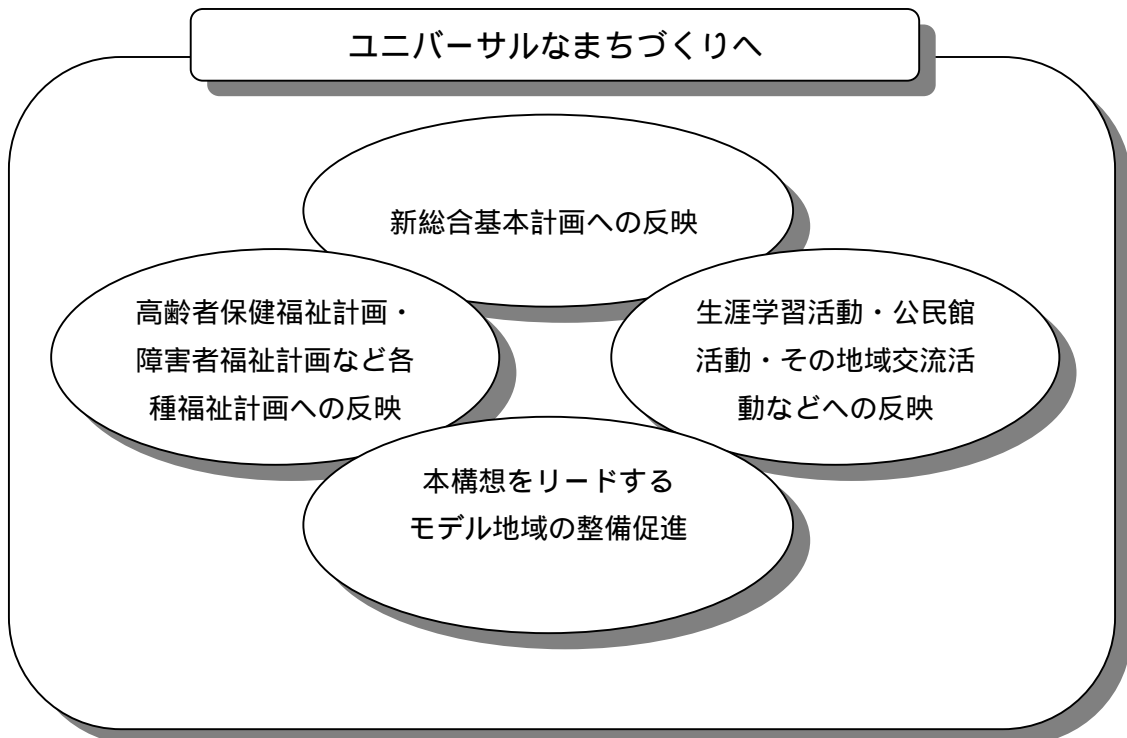
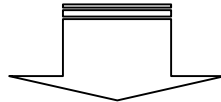
第7章 加古川市ユニバーサル基本構想の施策の方向

高齢者を「戦力となるステージ」「支えが必要なステージ」の2つのステージに分けて、現役時代の資格や技術を活かした起業などを含めた就業や活動の機会づくり、また、加古川市の特性を生かした農業・田園生活機会の整備や、高齢期に生かすことのできる資格、技術、知識教育の支援など、地域グループも考慮しつつ、13項目にわたる施策の方向づけを行った。

また、これら施策案の具体化を図る、モデルとなる地域整備の促進が必要であると位置付けた。

施策の方向づけのポイント

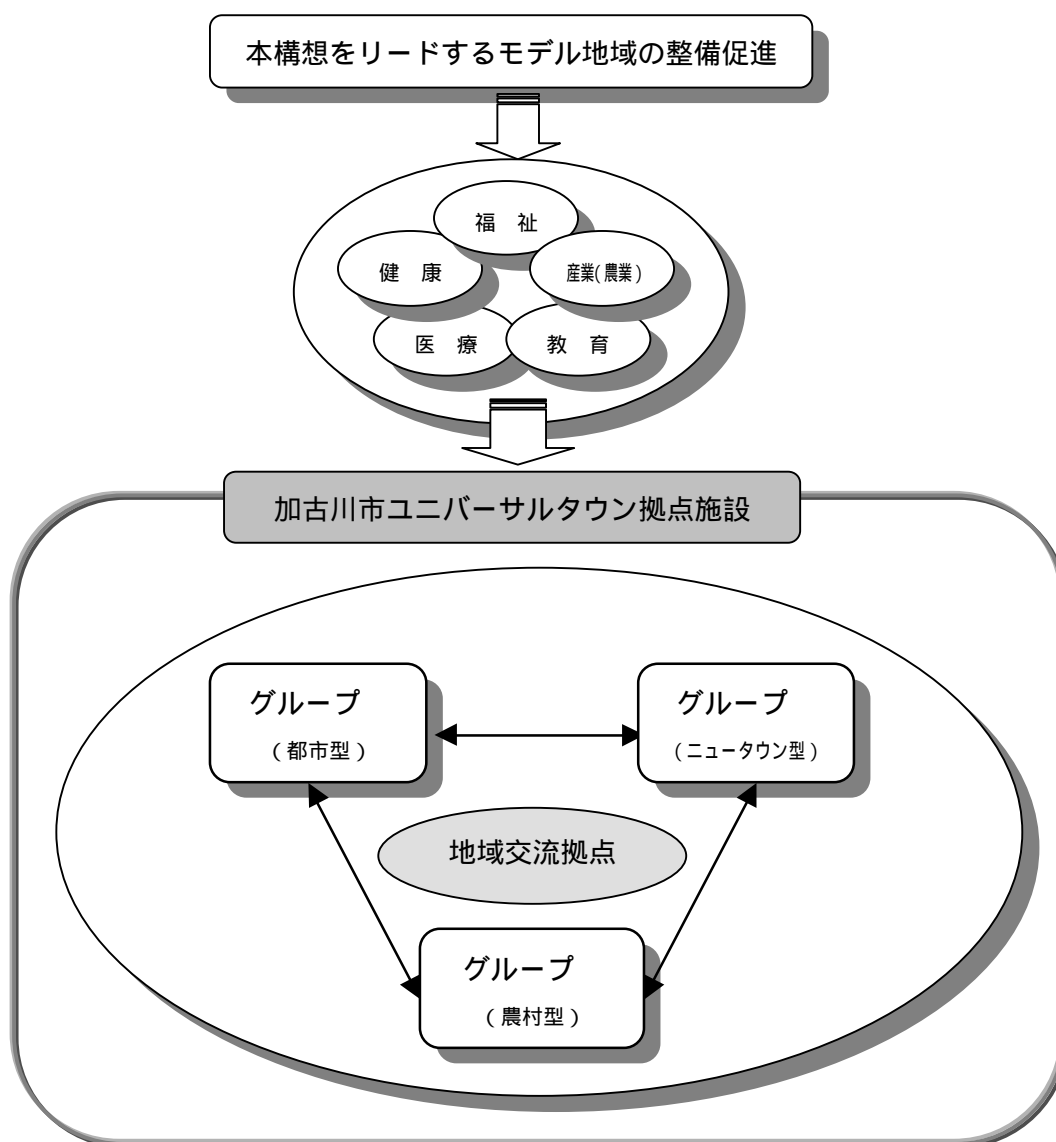
分類	戦力となるステージ			支えが必要なステージ	
	退職前の健康な層	退職前の健康な層・高年齢世代の健康な層	生活上の機能の低下しつつある層	要支援の層	要介護の層
産業経済 (生活)		就業の場と機会づくり	仕事継続・農業継続のための支援		
	便利な都市部に住みながら自然と関わる活動の場と機会づくり				
生活福祉教育健康住環境	仕事以外の活動の場と機会づくり (趣味その他の活動への支援)			活動の場と機会づくり(受動的活動、趣味その他の活動への支援)	
	交流の場と機会づくり / 世代間交流の場と機会づくり / 高齢者間の交流の場と機会づくり				
	高齢期に活かすことのできる資格・技術・知識の教育		生活支援		
	社会的活動への意識向上				
	支えに必要なステージに対する知識・技術の教育		自宅・地域で生活を継続することを可能とする環境の整備		
	医療福祉施設の充実 / 医療福祉サービスの充実				
	健康増進、身心機能の低下防止の教育と活動				



今後の取組み方向

本構想は、新総合基本計画や高齢者保健福祉計画などの行政計画、各部局での政策立案の検討課程への反映や、生涯学習活動や地域交流活動の視点、また、本構想をリードするモデル地域の整備促進へと繋げていく。

なお、モデル地域については、市内で最も高齢化率が高い加古川市北部地域をモデル地域とし、高齢者を中心としつつ、「ユニバーサル」の視点から障害者等も対象とした、福祉、健康、医療、教育、産業（農業）が複合する「加古川市ユニバーサルタウン拠点施設」を、地区計画の決定も念頭に入れ、民間を事業主体とする手法により整備を促進していくとともに、地域間交流を通じて、「加古川市ユニバーサルタウン基本構想」を先導する地域の形成を促す。



本編については加古川市役所内行
政資料室に備え付けてあります。